

第29期

江東区パルカレッジ

講義記録

# ワタシたちをとりまく社会の変化～ジェンダーへの視点を中心に～

講師：明治学院大学社会学部教授 加藤秀一

【プロフィール】一橋大学社会学部を卒業後、東京大学大学院に進み、現職。「性」や「生命」の社会学を専門に研究を行う。



## ■今日のテーマ

私たちの性のあり方や男女関係を包む大きな「社会の土台」の変化について知るとともに、私たちはどのような「歴史上の一時期」に生きているかを理解することが今日のテーマです。近年、何でも自己責任という風潮がありますが、私たちは社会という大きな土台の上で不可避免的にある方向へ川の濁流みたいなものに押し流されて生きている面もあるので、個人の問題でなく誰にも共通する問題も沢山あるのです。特にジェンダーの問題について考える時、社会の土台は変化しているのに男女別の役割意識など人々の意識や行動が変化しないことできしみが生じ、なかなか幸せになれない構造があることをお伝えしたいと思います。

## ■ジェンダーとは

ジェンダーは、性の社会的な面と言うぐらいの理解をしていただければ十分です。少し踏み込んだ定義をすると、私たちは人間と出会ったときに、女か男か分類して、それに応じた対応を知らずに取っている。社会全体で見ると、男女で異なる役割やイメージを割当てられています。こういうのは女らしい、女らしくない、男はこうすべきだ、すべきじゃないというルールを常に割当てられている、そうした私たちをある意味では縛っているし、ある意味では包んでいる空気やルールのようなものをジェンダーと私は呼んでいます。

## ■社会の「変化」をとらえることの難しさ

変化を見るには前後の比較が必要ですが、実は「昔」を正確に知ることは難しい。大抵の人は物心ついてからのことしか思い浮かべられないのですが、つい「昔の日本はよかった」と思い出を美

化しがちです。それを乗り越えてリアルな昔を知るには本当に謙虚に勉強しなければいけません。

## ■例①少年犯罪は増加したか？

内閣府の調査（2015年）によれば、過去5年間で「少年による重大な犯罪」が増えたと思う人78.6%（少年犯罪に関する世論調査より）に上ります。だが実際は増えてもいないし、凶悪化もしていない。一般に凶悪犯罪と言われる殺人、放火、強制性交等について、終戦後すぐの1946年から2018年までの少年による刑法犯の件数（警察の資料）を見ると、昔のほうがはるかに少年犯罪は多かったですとわかります。何十年前という近い時代だからこそ、つい自分の持っている感覚を当てはめて、わかった気になってしまうのかもしれない。

## ■例②家族の崩壊？

日本では、「戦後の民主主義の下で個人主義化が行き過ぎて、家族が崩壊した」と主張する政治家や評論家がありますが、よく話題に上る「離婚率が上昇した」という点について見ていきます。明治期の離婚率は、現在よりもはるかに高く、当時の日本は、欧米各国から「離婚大国」と呼ばれていました。明治時代の日本の政策は何でもそうですが、なるべく欧米に近づく必要があると考え、離婚がしにくいよう民法を改正し離婚率を下げました。その後、離婚率は上下しましたが、結局明治後半までの離婚率に達したことはありません。ですので、高い離婚率は日本の伝統文化と言ってもいい。それが欧米文化の影響で減少してきた、というのが歴史の事実です。現在でも日本では欧米とは異なり結婚・離婚の手続きは比較的容易です。

### ■例③三世同居から核家族へ？

昔は大家族で、だんだん核家族になってきたというイメージがあるかもしれませんが、これも正確ではありません。1920年頃から核家族率は50%近くありました。実は、この100年で核家族率はそんなに変わっていません。さらに中世でもかなりの部分は核家族だったと研究されています。これは考えてみれば当たり前で、昔は寿命が短く孫と同居できる頃まで生きられる人は多くなかったのです、事実上核家族になるわけです。

### ■変わる女性のライフコース（三世代の比較）

【例：祖母（明治38年生まれ）、母（昭和2年生まれ）、娘（昭和35年生まれ）】

ライフコースとは、人生の中でどんなイベントがあり、それは何歳ぐらいで訪れるのが平均的かということを見ていくものです。

祖母の世代で最初に子どもが生まれるのは25.5歳、娘の世代では26.7歳。長子出産から末子出産までの幅ですが、昔の人のほうが広いです。何人もの子どもを何年にも渡って産むということがありました。現在では2人ぐらいの子どもを数年の間に産んで、人生の出産は終わりという方が多くなっています。末子結婚は、祖母の世代で63.5歳。現在では晩婚化、晩産化が進んでいますから、末子結婚は同じぐらいの年齢かもしれませんが、その意味合いは全然違います。平均寿命を見ると祖母の世代は70歳、娘の世代は81.8歳です。祖母の世代は末子結婚の頃にはもう寿命が来ていましたが、現在は末子結婚後も人生は20年以上続くわけです。この時期をどう過ごすべきか。また、子どもを産む期間や数も減ると、子どもと親、自分との関係も変わってくる。これは個人の努力や好みの問題ではなく、平均的な人生をモデルにするとこういうことが見えてくるわけです。背景には大きな社会の動きがあるので、社会的な対処がどうしても必要になってきます。

### ■社会の変化の土台～人口転換～

①第1次人口転換（19世紀頃～）：「多産多死」

→「多産少死」→「少産少死」のように人口が「増える」時代から「減る」時代へ転換が起きました。

②第2次人口転換（1960年頃～）：いわゆる最近の少子化のことですが、北西ヨーロッパを皮切りに、再び出生率低下が進み人口置換水準を下回りました。つまり、人類の先進国は人口が減少していく局面に入ってしまったわけです。

### ■少子化は問題か？

先に述べた人口転換が起きた時代には、各年齢の人口構成も変化していました。1665年頃は、生産年齢人口（働き盛りの人）が沢山いて、その上に高齢者が乗っかっている構成でしたが、2020年になると、高齢層が拡大し生産年齢人口は減っている。人口構成が全く違う社会では、どういう政策を取るべきかとかいうことも変わらざるを得ません。それは善悪を超えた問題です。何かと云えば、少子化を止めないと日本が終わると言う人がいますが、人口転換の大きな流れは、人類が科学技術を進歩させ近代社会を作る過程で必然的に起きることであり、少子化は人類の宿命です。あまりに急激な少子高齢化は確かに問題で対策が必要ですが、個々人の心がけの問題ではないということをお伝えしたいです。また、少子化の原因について専門家の大多数が述べるのは「雇用環境の悪化と不安定化」です。解決には女性・男性ともに、家庭生活を営みながら安定した賃労働の機会を得られる（ワーク・ライフ・バランス）雇用政策、年金政策等を充実させる必要があると思います。

### ■落合恵美子著書の紹介「日本はなぜ子育てが世界一難しい国になったか？50年で変わったこと」

この本から引用すると「育児不安に陥ったのは、社会的ネットワークを失い、孤立した母親たちだった。昔も今も、家族だけで立派に子どもを育てられた時代など、無かったのだ。ましてや母親だけの「ワンオペ育児」なんて、できるわけがない。」とあります。1960年代の母親たちは、別世帯に住む自分の姉妹たちと頻りに協力し合っていました

(親族ネットワーク)。それが都市化、きょうだい数の減少で不可能になり 2000 年代には弊害が目立つようになってきました。現代は、恐らく人類の歴史上初めて孤立した状態での子育てを強いられる特殊な状況にあるわけで、孤立を防ぐためにネットワークを再構築するなど、社会的な対応(夫、保育施設も含む)が必要ということです。

## ■人々の意識・行動に大きな影響を与える「メディア」と意思決定機関におけるジェンダー不均衡

社会の土台が変わっても、なかなか変わらないものがあり、色々なきしみが生じている例としてメディアを取り上げたいと思います。近年でも日本新聞協会、日本放送協会、日本民間放送連盟役員にほとんど女性がいないということがあります。送り手側の男女比が偏っていれば、作品や中身も当然偏ってくるのが予想されます。

## ■「色の好み」と「メディア」の因果関係？

ピンクも比較的短期間に扱われ方が変化してきたと思いますが、女子向けコミック誌がピンクを多用するのは女の子がピンクを好むからか、コミック誌から女の子が誘導されたのか。原因と結果の関係は両方ありますが、「色の好み」は単なる事実でなく、性別ごとに「らしい」色を好むべきという規範(ルール)意識が働いているのではないかと考えられます。

## ■「炎上 CM」を分析する

テレビ CM や広告が性差別的だとして批判されることは 1970 年代からしばしば行われてきました(例として LUMINE「女性を応援する」CM(2015 年 3 月)を再生)。視聴者を不快にさせたポイントは①ルッキズム(lookism):女性の価値は「外見」で決まるという性差別が剥き出しにされていること、②それを女性自身が従順に受け入れ、男の基準に従っていることなどがあると思います。「女性は本来は外見こそが何よりも重要なのだが、それを持たない者は(本来の役目ではないが)仕事で頑張れば認めてやってもいい」という傲慢なコー

ドを男性上司が象徴していると読めます。こうしたメディアの影響を我々は受けるだけでなく、抗議の声を上げる手段が今、SNS によって与えられたのは、危険な面もありますが発信者にフィードバックできるという意味ではポジティブな面もあると思います。

## ■「なんとか女子」「なんとか男子」という言葉の背後にあるセクシズム

ジェンダー役割規範を前提にして、本来は場違いであり素人にすぎないとみなしつつ、そのわりには詳しいことを褒めてやる、という高飛車なスタンスだと思います。これらがやっかいなのは、抵抗しにくいマイルドな言葉なので、真正面から抗議したりすると大げさだとか乗りが悪いというふうに言われて、声が封じられてしまうことです。

## ■まとめ

私たちの生活はどんなに一人一人の、自分自身にとって切実なことであっても、同時に歴史や社会構造という大きなものに結びついています。ジェンダーも人間社会や歴史と共に変化するので、大きな歴史の流れで見れば全て一時的な約束事で、何十年・何百年後かにはまた必ず変化するものです。同性同士の結婚も認められない時期が長かったですが、一旦急激に変化し出せば変化できるわけです。私たちはそういう約束事を人間自身が作っているので、作り直していくこともできるということをお話したいと思いました。

## ■受講生の感想(抜粋)

- ・「個人の問題ではなく、世の中の大きな動きである」というのは、なるほど確かにそのとおり！と、とても納得しました。ジェンダーギャップ指数 120 位という状況と向き合って、現代に即した制度を整備していくべきだと思いました。
- ・社会の「変化」を具体的なデータを基に学ぶことができ、とても興味深く感じました。自分自身が美化された「昔のイメージ」を持っていることに気付かされました。

## 家族みんなで楽しく暮らす！～ご機嫌に過ごすための家事半分術～

講師：家事研究家 佐光紀子

【プロフィール】フリーの翻訳者活動をきっかけに重曹や酢などの自然素材を使った家事に目覚め、近年は、家事研究家として、書籍の出版や雑誌、テレビ、講座など各方面で活躍。



### ■良い主婦って何でしょうね？

夕飯は手作り。それとも、インスタントやスーパーのおかず？部屋はホテルライクに片付いている。それとも、美は乱調にあり？どちらが良い主婦だと思いますか？掃除、洗濯、食事、どれをとっても、「良い主婦」の家事って、多分みんな同じイメージを持っていると思うんです。

家事をきちんとするのがいい妻、あるいは良い母ってというのは、日本ではすごく長く言われていることです。例えばちゃんと朝御飯を食べさせる。夕飯は手作り。掃除が行き届いている。アイロンがかかった洋服を家族に着せている。幼稚園の上履きがちゃんと白いのはママの責任。そんな話というのはすごく出てくる。

### ■日本における家事の特性とは？

一定レベルの着地点をちゃんと達成して、家の中を回していくのは、妻の仕事だと日本では長く言われているわけですが、外国人と話をすると私の常識は、海外では通じないのねということが結構あります。家事ができないと、駄目な妻、駄目な母みたいに言われがちですけど、本当にそうなのかなということを今日は考えてみたいと思います。

きちんとした家事にはイメージがほぼ共通しているものがあると思うんですが、それってどこからくるんでしょう。

1 つは自分のお母さんがやっていた、というのが結構大きいと思うんです。特にお母さんが専業主婦で自分が仕事をしていると、なかなかそこに届かない。もう1つが世間。例えば夫がシワシワのワイシャツで会社に行くと『誰か』に何か言わ

れるんじゃないか。その『誰か』は誰なのか。

家事男子座談会というのを時々やっているんですけど、男性同士だとしわくちのワイシャツでも「昨日帰れなかったのかなと思うぐらいだ」って。大体、「奥さんアイロンもかけてくれないんですか」って言うのは女性の社員。割と女同士が厳しい目で見合っているっていう感じはします。

### ■「きちんとした家事」はどこからきたのか？

きちんとした家事というのを日本では津々浦々みんなが感じているわけですが、このきちんとした家事の基準がどこからきているかという、実は女中さんの家事なのです。戦争が終わって1950年代ぐらいまでは、日本にも結構住み込みの女中さんがいました。それが高度経済成長で工場とか事務の求人が増え、みんな女中さんになりたがらなくなって、やがて消えていくのですが、それまでは女中さんが家事をきちんとやってくれる家事のプロだったわけです。だからきちんとしている、管理が行き届いていいおうちに住めるということは豊かな人なわけですよ。

家事はもともと外部化してやっていたものだったわけで、それが戦後、高度経済成長の時に女中さんとおかみさんを主婦が一人で引き受けたわけですよ。このときに日本以外のところで何が起きていたかというと、ウーマンリブですよ。女性の権利がそこですごく言われて、欧米はそこでものすごく変わっていった。

だから今私たちがやらなきゃいけないと思っている家事って、実は戦後に刷り込まれてきたものなんだよってということだけ、頭の中に置いておいていただけるといいかなと思います。

## ■家はなんで片付かないの？

家の中をきちんと片付けることも、そういう意味では女中さんの仕事だったわけです。

片付ける物を大きく3つに分けると、自分の物。家族みんなの物。自分以外の家族個人の物。この3つに分かれると思うんですけども、共有の物というのは、家族全員「お母さんの物だろう」と思っているパターンが多いので、基本的にはこれと自分の物を私が片付ける。それ以外のものについては、勝手に捨ててはいけない、相手が片付けるということを、線を引いて移譲していく。そのために子どもが小さいうちは色分けをすとか、場所を決めて、そこがあふれちゃったらどうしようかということと一緒に考えてあげて減らすとか、引き取り手を自分で探させるのもよいと思います。

## ■日本の家は散らかるようにできている

戦争に負けて、欧米のライフスタイルが入ってくるわけです。公団はその走りです。けれども、例えば天井に電灯があるのに間接照明があったり、畳の上にカーペットがあったり。玄関マットは玄関の手前で泥を落とすものですが、土足で入るわけでもないのに玄関の上にマットがあったり。なんとなく、欧米のライフスタイルを形だけまねっこして、取り入れているパターンが多いように思います。だから、戦後のおうちは、ものがやたらと増える。だから片付かないのは私のせいではなくて、日本の戦後の家のせいだと思うんです。

また、掃除については、ママは女の子に厳しいのに男の子には「男の子だからしょうがない」となる。だから、新婚家庭なんかで、掃除は気が付いたほうが先にやることにすると、大体もめるんです。女性のほうが汚れへの沸点が低いからです。旦那がぼんやりしているというよりは、そうやって女子が早い時期から厳しく「きちんとした」掃除を刷り込まれてきているからなんですね。

## ■家事はやらせなきゃ一生覚えません

家事は生活技術です。そういう意味で言うと、できないと将来困るのは子どもだったり夫です。

私たちがやってあげていることで、彼らが家事を学ぶ機会を失っちゃうことになるんです。なので、その辺りを頭を切り替えましょう。

みなさんは、彼のボスではない。最終的な家事の責任は皆さんにあるわけではありません。だから、シェアするときは、対等に分ける。できることを1つでもいいから全面的に責任を持ってもらう。そこから始めていくのがいいかなと。

家計動向調査で見ると、平日の妻の家事の時間は夫の約7倍。これを52週続けると、家事の経験値は1,632時間。夫は275時間。仕事に例えて新人研修を2人で始めましたという話にすると、52週続けると、妻は204回の研修を終えたことになり、ほぼ1年分の研修が終わっているわけです。一方夫は34日間の研修を終えたことになる。初心者講習終わったレベル。そうすると実力差が広がっていくわけです。

だから、早めに育ってもらわないと一大事なわけです。家事のできない夫に介護されると思ったら怖いでしょう？大事なのは、やらなかったら一生覚えれないということ。それは子どもも一緒です。で、実際に家事をやるときに1つ大事なのは、1つでいいから完璧に任せること。だからごみも、よくある「今日ごみよ」って言ってパパに渡すんじゃないで、あなたがごみをどうするかと曜日を覚えて、ごみ箱のサイズを覚えて袋がなくなったら買ってくるのも君の仕事、というところまで全部任せる。できるようになるまではこちらが我慢する。なかなか難しいんですけども、尻拭いをしないで一緒に困ることが大事だと思うのです。こっちが常に引き受ける状態でこうやって待っているとみんな「大丈夫、お母さんがいざとなったら助けてくれるから」ってなっちゃう。

でも、何回かやると学びます。だから最初1回2回は大変でも、手を出さない。手を出しちゃうと、ママがやってくれるということになっちゃう。だからやらないで、一緒に困る。特にパートナーの場合は相手が社会人なので、仕事を対等に同僚と分けるようなつもりで任せるというのが大事かなと思います。経験値が足りないだけですから、

経験を積むことが大事なんです。

## ■以心伝心は幻想です

コミュニケーションで大事なのは具体的に聞くことだと思います。以心伝心は幻想です。

例えば仕事でプレゼンの資料を作る。パワーポイントで5枚ねって頼んだのに、エクセルで1枚の資料を持ってこられたら、ダメ出しすべきですよ。でも、パワーポイントで5枚という着地点を言わないで「プレゼンの資料作って」で、エクセル1枚でてきたら、文句は言えない。こっちの頼み方にも問題があるからです。わかってるでしょ、っていうわけにはいかないんですね。

同じように、例えば食器を洗うというのは、食器棚の食器の籠に置くところまでじゃなくて全部拭いて戻すところまでが私の食器洗いなんだとお互いに納得してから、家事をシェアする。

また、例えば、会社で先輩が資料を作っている時に、後ろから「最初はワードで作るわけ？」「うまくいかないんじゃない？」と、いちいち細かく口を出したら、パワハラになりかねない。結果が一緒なら、過程は任せてみましょう。最初からパワポじゃなくてもいいのです。

もし、相手のやり方が、想定外だったら、「違うじゃないの」ってダメ出しするんじゃなくて「なぜそうするの」って聞いてみましょう。大体向こうにも理由がある。大事なのは聞くことで話の糸口を作って話をする事だと思います。

## ■コミュニケーションとしての家事

夫婦とは言え、育ち方も違うし、女子のほうが親に厳しく育てられていたりもするので、あれこれれるのは避けられません。けれども、家事をネタに話をすることで、コミュニケーションがスムーズになることが大事なかなと思います。

妻を手伝いたいというパートナーも多いので、一言「こうしたいんだよね」などと相談してみるのも一案。抱えずに、コミュニケーションしてみてください。また、やってもらったら、気が付いているよという合図がわりに「ありがとう」。やっ

ているうちに、子どもたちも、言ってくれるようになってたりします。

## ■ご機嫌に暮らせる家族を目指しましょう

一番大事なのは、家事っていうのは家族がみんな御機嫌に過ごすためにやるものだと思います。だから、皆さんが頑張って家族に御機嫌になってもらう必要はなくて、皆さんも御機嫌に暮らせないと。みなさんも、家族の一人ですから。

皆さんは多分とても頑張っていると思うので、もうあまり頑張りすぎずにちょっと力を抜いていきましょう。それでもちゃんと子どもたちは育つし、パートナーも話を聞いていると妻の御機嫌はすごく気になるみたいなので、自分だけが我慢すればと思うことでくたびれてしまうんじゃなくて、ハッピーママでいきましょう。

もう1つ、基本的に私がみんなを支えるのだと思わずに、家族はみんな『共同生活者』だと思うといいかなと。特に子どもはママは対等だと思っていることが多いと思うので、とても態度の大きい手間のかかる共同生活者なんですけれども、ある日突然すごい頼りになる共同生活者になってくると思うので、無理せず楽しく生きましょう。

## ■受講生の感想（抜粋）

- ・海外のお話も聞けて、自分が毎日どれだけ無理をして頑張っているかに気付かされました。共同生活者は考えたことがなかったのですが、その通りだなと感じました。尻ぬぐいの部分をやってしまったので、子どもの将来のためにも「一緒に困る」をやってみようと思います。
- ・家事で「申し訳ないなあ」と思うことがあったのですが、実はいろんな仕組みによるものだと知り、心が軽くなりました。家族と協力して、何を任せられるか、それは私が一切尻拭いしないで我慢することができるものかを、今日、帰ったら話し合ってみようと思いました。

# 多様な性ってなんだろう？～互いの違いを受け止めあえる社会を目指して～

講師：認定特定非営利活動法人 ReBit（小川奈津己、ゆいこ）

【プロフィール】ReBitは、大学生や20代の若者約500名で活動をしている認定NPO法人です。「少しずつを、何度でも」繰り返し、LGBTQを含めた全ての子どもたちがありのまま大人になれる社会を目指して活動しています。

講義では以下の内容を中心に、当事者である講師お二人のこれまでの生い立ちや感じたこと、周囲の人たちとのエピソード等を交えてお話いただきました。多様な性について正しく理解し、誰もが生きやすい社会のあり方について、受講生と共に考える時間となりました。

## ■講義内容

### 1. 多様な性について

- ・セクシュアリティとは？
- ・多様な性とは？
- ・多様なセクシュアリティ
- ・カミングアウトとアウティング

### 2. 教育における多様な性

- ・教育現場でのLGBTQに関する現状
- ・教育現場に期待されていること
- ・多様な性や多様性について学校で取り扱う意義

### 3. 就労における多様な性

- ・職場でのLGBTQに関する現状
- ・SOGI ハラスメントとは？

### 4. 医療・福祉における多様な性

- ・医療・福祉現場でのLGBTQに関する現状

### 5. 行政における多様な性

- ・窓口・相談業務でのLGBTQに関する現状
- ・災害時のLGBTQに関する現状

### 6. 今日からできること

- ・アライとは？

## ■受講生の感想（抜粋）

- ・当事者のうち、求職時に困難を感じた人が9割。LGBTが世の中に浸透していないことが明確であることが分かる数値である。私は「LGBT」の

方と身近で会ったことはなく、言葉だけ知っていた。でも多様な性があるし、多様な人々がいる状況を社会が受け入れていける世の中がもっと浸透して欲しいと思った。なつきさんとゆいこさんの生い立ちのお話を伺い、自然と涙が出た。今日から自分もアライになれるようになりたい。そういう人を1人でも増やしたい。

- ・子どもからのカミングアウトにどう対応するか意見交換し、色々な考えを知る事ができた。自分の性に対して意識した事がなかったが、多様な性を考えると様々な事に悩み考え孤独を感じてしまう事があると思ったので、「Ally」と表示する事で全ての人が生きやすくなる世界になってほしい。
- ・お二人が経験されたことをつらかった部分も話していただけて、活動への気持ちやみんなへ取り組みを伝えていくことが大事だと感じました。今、自分の周りでLGBTの方は知らないのですが、もしかしたら自分が知らないだけなのかもしれない、見えない部分にも気付いて何か力になっていかれたらなと感じました。一人一人が素晴らしいなど、あらためて思います。
- ・私はシスジェンダー女性ですが、幼稚園や学校で必要以上に男女を分ける事には違和感がありました。家庭の中ではもちろん子どもに性を押し付けたり、お友達に対して差別的な対応をしないように教えていきたいと思いますが、教育現場でどのような事が起きているのか、常に興味を持ち、性の違いで苦しむ人が少しでも減らせるようにしていきたいと思います。



## 身近にある DV～自分も相手も尊重し合える関係をつくろう～

講師：一般社団法人エープラス代表理事  
自治体 DV 専門相談員

吉祥眞佐緒



【プロフィール】DV 被害を受けた女性と DV 家庭に育った子どもの支援を行う「一般社団法人エープラス」の代表理事。他にも、デート DV 防止教育プログラム等、多方面で活躍中。

### ■こんなことも DV になります

DV の問題はとかく身体的な暴力ととらえられがちです。一方で私たちのもとには、「DV はされてないけど、モラハラはされているから相談に乗ってほしい」というお問い合わせは多いです。

でもそれって立派な暴力なんじゃないかなと思うんです。人の目に見えるような形で傷がついているか否か、という違いだけで心に大きな傷を受けたことには変わりないと思っています。そして、2 人が別れば問題解決ということではありません。仮に別れても、また違う相手に同じことをしてしまうんです。なので、DV をしっかりと知ってもらうことが、被害者も加害者も出さない一番の有効な手立てと思っています。

まず、DV は殴る蹴るの身体的暴力だけではないということを知ってほしいんです。身体的暴力はわかりやすいです。叩いたほうも叩かれたほうも自覚がありますし、周りの人もケガが見えるので気付きやすいです。夫婦間の性的な暴力が一番相談しにくい事柄です。たとえ専門家でも見ず知らずの人にいきなり夫婦の性の話をするのは躊躇すると思います。ですが、たとえ夫婦でも同意がないのに性行為をするのは性的な暴力にあたることも、ぜひ知っておいていただきたい。

それから家庭のお金の問題。共稼ぎのカップルは、生活費を出し合って、その他の収入は自己管理するという方が多いと思います。けれども、明らかに夫婦間の自由に使えるお金の差が大きいという相談も多いです。

精神的暴力、モラル・ハラスメントも DV の 1 つです。例えばお子さんがいる場合は、子どもを理由にパートナーを責める。これは、社会的に子ど

もを育てるのは母親に責任があると、みんな思っているからです。母親の権威を貶めることは、立派な暴力です。

### ■ジェンダーギャップ指数と日本

ジェンダーギャップ指数、毎年発表されるんですけども御存じでしょうか？これは世界経済フォーラムというスイスのシンクタンクが毎年、男女平等指数を国ごとに調べています。

これは 4 つの指標で調べていて、経済、教育、健康、政治参画なんですけれども、健康は日本では女性のほうが長寿命なので世界でもトップクラスです。また、教育を受ける機会は男女で変わらなくなってきました。経済は、それに比べると開きがあり、男性と同じ働きをしても女性は男性の 7 割弱の賃金です。それから政治参画。国会議員の数です。女性の国会議員は非常に少ない。

総合的に、日本は 156 か国中 120 位と、低い結果になっています。

### ■デート DV

「デート DV」という言葉もありまして、江東区の中学校でも、毎年防止教育のお話をさせていただいているのですが、結婚しているか、していないかで法律が違います。DV は夫婦の間ですが、デート DV は交際している恋人同士の間で起こる暴力をいいます。本来、夫婦や恋人同士というのは対等であるべきなんですけれども、そうでないパートナー関係は、要注意なんです。

### ■データで見る DV

もうちょっとデータを紹介します。DV の相談件

数が、右肩上がりが増えていきます。

それから、被害を受けた人には男性もいますが、9割が女性被害者です。けれども、殺人だけは半々ぐらいですよ。どうしてだと思いますか？ある日突然、夫を殺したくなるわけじゃないんですよ。日頃ずっと苦しめられていて、暴力から逃れるにはこの人を殺すしかない所まで気持ちが追い詰められる。裁判を傍聴するとわかってきます。

今、警察は大分、DV事件に対して俊敏に動いてくれるようになりました。暴行事件や傷害事件では、検挙の件数が多いんですけども、これは程度の軽い暴力であっても警察はすぐ逮捕するようになったからです。

保護命令の発令件数は一時少し増えましたが、減っています。保護命令は、身体的な暴力があつてかつ命の危険があるほどの激しい暴力があつた時に出る命令です。

DV被害を受けた時に相談したか、というはまだ半分近くは誰にも相談していないことがわかります。何故かという、やはり相談するほどではないから、という人が圧倒的に多いです。

DV被害は、結婚している人の3人に1人は被害経験があると言われてます。この割合はずっと変わりません。ただ、DV被害を受けた人の中で相手と別れた人が年々増えているんです。男性は14.2%、女性は16.3%の人が別れた。4割の人が、別れたいと思ったけれども別れられなかった。別れなかった人に一番の理由を聞いてみると、子どもです。私の稼ぎでは今の暮らしの水準を保ってあげられないと考えると、子どものために我慢しようと思うのも仕方ないかなと思います。

## ■DVの要因を考える

では、どうしてDVが起こるのかを説明したいと思います。私が考えるDVの要因は5つです。

1つ目は、強いほうが相手を力で支配する。力を持っていたら、弱いほうを操作してもいいという考え方が、DVの要因の1つだと思います。

2つ目は、暴力を容認する意識。理由があれば暴力はOKだという考え方です。この考え方を持

っている人たちは暴力を振ります。そして、振られる側も相手がこんなに怒っているのは自分のせいだと思ってしまい、加害者側も被害者側も暴力を容認する意識を持ってしまうと、DVの階段を駆け上がっちゃいます。

それからジェンダーバイアス。男はこうあるべき、女はこうあるべきという性別による役割の偏見。日本では、男の人は稼いでいるから家ではのんびりさせてあげてほしいとか、そんな意識であふれていることが、DVの要因の3つ目です。

そして4つ目は、加害者、被害者、どちらにも共通する夫婦観。例えば家事・育児は女性がやるべきだとか、そんな夫婦観を両方が持っている、女性が我慢する側になりがちです。

5つ目がそれを後押しするような社会背景。「旦那さんも大変なのよ」と言われちゃうと、何も言えなくなってしまう。「愚痴をいっぱい言っているですよ」という社会になると夫婦の関係性が変わっていくと思います。DVというのは行為の問題じゃなくて、価値観と2人の関係性の問題です。

## ■素敵な関係を築く4つの方法

では、お互いが尊重し合う関係を築ける4つの方法を、紹介程度ですがお伝えしたいと思います。

1つ目は、妻役割、夫役割を押しつけない、期待し過ぎないことです。私たちの会ではDVの加害者更生教育をやっています。DVをしてしまう男性たちがやめるために毎週勉強しにきます。ここでの様子を見ていると、結婚したら自分が主導権を握る立場になれると思っている人が加害者になることが推測されます。一方で、パートナーに話を聞くと、「そのうち性格が丸くなって暴力は振るわなくなる」と言う方もいます。妻役割とか夫役割をこうだと思い込んでいる人はDVの加害者になりやすいし、被害者になる可能性があるのです。

2つ目が、どちらかが我慢するバランスの悪い関係でなく、お互いのことを大切にしようこと。これはすごく難しいんです。相手のことを大切にできるのは、自分のことを大切にできる人なんで

す。ぜひ、もうこれは仕事だと思って自分を大切にすることです。

それから、3 つ目は自分の気持ちと考えを大切にすること。気持ちと考えは別なんです。これを一緒に考えていると、DV 加害者のやり方に取り込まれやすいんです。自分が今どんな気持ちでいて、その気持ちはどんな考えに基づいているのか、自分の中で分析していく。すると相手の行為を DV などと見抜くことができるようになるんです。

そして4つ目、これはもうおまじないのように唱えてほしいんです。「自分と相手はフェアな関係だ、夫婦は本来対等なんです」、これを唱えることで、対等な関係を目指せるようになります。

なので、この4つはいろいろ考えながら、少しずつ行動に移してもらいたいです。

## ■誰かに相談しよう

DV の問題というのは、2 人だけで解決するのはすごく難しいんです。迷わず相談するのがお勧めです。ただ、話す相手は慎重に選んだほうがいいです。自分の話を否定せずに聞いてくれる人がお勧めです。相談のコツとしては、1 時間ぐらい時間を取ってほしいとか、時間を区切るといいと思います。そしてこの1時間でどう話そうか自分なりにまとめておく。どうしたら相手に伝わりやすいか考えながら作るから自分の頭の中も整理されます。もし、「あなたの努力が足りないんじゃないの」とか言われたら、すごく悲しいんですけども、「ごめんね、今日話聞いてくれてありがとう」と言って、心の距離を取ることをお勧めします。

区内にある相談窓口、区役所、東京都だけでなく全国各地どの地域に電話してもいい相談窓口があるし、SNS で気軽に相談できる DV の相談もあるので、そこに相談してみるのも1つだと思います。秘密は守られます。とにかく些細なことだと思わずに、相談することが大切です。

## ■DV についてのディスカッション

DV をなくす、お互いを尊重し合う、よりよい関係を築くために実行できることを各班でシェア・

発表を行いました。

## ■加害者が生まれる背景と生まない手段

加害者のことを最後に説明したいと思います。いじめっ子が出てくると、それに従う人が出てきて、力のある人は威張ってもいい、ない人は、取り巻きのよう生きていくやり方を男の子が身に付けていることがわかってきました。女の子にも、そういうのはもちろんありますが、男の子はやっぱり暴力で問題を解決する志向が強いですよね。それを成功体験として積み重ねているんです。

女子は、周囲に気を配りなさいって言われているし、それで女子たちは成功体験を持っていると思うんです。男子とけんかして返り討ちに遭うより、笑って可愛がられるほうがうまくいくとか、環境の中で自分なりの「これだったらうまくいく」というやり方を、みんな持っていると思います。

それが、人を自分の思いどおりにするためだったら、いじめてもいいんだとか、そういう考えが DV につながっちゃう。どうしても譲れないことがあったら、話し合いで解決するしかないんですよ、人間同士って。

コミュニケーションが取れるカップルは、どんどんコミュニケーションを取る。日頃の感謝をお互いに伝え合うということで、尊重し合えるいい関係ができると思います。そこが DV カップルとそうでないカップルの大きな違いだと思います。

## ■受講生の感想（抜粋）

- まだまだ世の中には DV というものが伝わっていないと思いました。体にアザができるものだけではないのに、暴力＝DV になっている世の中だと感じます。その部分をもっと世の中に伝われば DV はなくなるのではないかと思います。
- 「DV」は暴力だけかと思っていたが、多種あることを知った。よくみると、実際に身の回りにもあったことに気付く。ジェンダーバイアスや社会の目など、背景にある要因は大きいと感じた。子どもたちにジェンダーバイアスを植え付けないように子育てしていけたらと思う。

# 自らのライフキャリアをデザインする

※講師のみオンライン (Zoom) で講義

講師：神奈川大学人間科学部教授 荻野佳代子

【プロフィール】キャリア・ジェンダー・ストレスをキーワードに心理学の立場から研究。男女共同参画の視点からライフキャリア教育にも取り組む。



## ■「ワークキャリア」と「ライフキャリア」

「ワークキャリア」は狭い意味(仕事や職務等)でのキャリアを指し、「ライフキャリア」は狭い意味でのキャリアを含みつつ、個人が社会で様々な役割を通して作る「自分らしい生き方」全体を指す言葉です。社会が急速に変化する現代は、これまでの価値観(思い込み)に捉われず生き方(キャリア)を考える必要があるため、このライフキャリアが今注目されています。

## ■女性の理想のライフコースと実現の難しさ

ライフコースとはライフイベント(人生での出来事:結婚・出産・仕事等)を組合せて個人が一生の間にたどる道筋を考える方法で、典型的なものには専業主婦、再就職、両立、DINKS、非婚就業などがあります。令和元年版男女共同参画白書によれば一番支持が高いのは両立コースで、次点は再就職コースでした。

一方理想のライフコースの選択・実現は難しく、理想の実現は再就職コースで約半数、両立コースでは3割に満たないという調査結果もあります。特に出産後の就業継続が難しく、第一子出産前に仕事を持っていた方のうち、出産後も続けている方は約半数(53%)です。

背景として女性の家事・育児時間は国際的にも長く、日本では6歳未満の子がいる夫婦の1日当たりの家事・育児時間が、妻は7時間34分に対し、夫は1時間23分です(令和2年版男女共同参画白書)。男性の中には性別役割分担意識で家事・育児を担う意識が根づいていない方もいれば、参加したいが長時間労働等で不可能な方もいると思います。しかし、出産・育児期の夫の積極的な育児参加が、妻の結婚満足度に長期的に影響する

という研究もあります。育児期の関わりがその後の夫婦関係にも大きく影響するということですね。

## ■「統合」的キャリア発達(L. S. Hansen)

キャリアには家庭における役割から社会における役割まで人生の全ての役割が含まれており、これらが統合されたものが私たちの人生(キャリア)という考え方です。人生には代表的な4つの役割【(4つのL:①仕事・労働(Labor)、②愛(Love)、③学習(Learning)、④余暇(Leisure)】があり、それらがバランスよく統合されて初めて個人として意味ある人生になっていきます。

## ■ワーク：私らしい‘ライフキャリア’に向けて ～( )年後の自分を想像しよう～

①( )年後の自分らしい姿やなりたい姿をイメージしましょう。②4つのL(仕事・愛・学習・余暇)の欄を記入します。③②を見ながら自分らしい( )年後の姿を一言で表してみましょう。④未来に向けて今できることを考えてみましょう。  
～個人ワーク後二人一組で共有し発表しました～

## ■まとめ「ライフキャリアを‘デザイン’する」

自分らしい生き方を「自分で」描いていきましょう。実現するか心配もあると思いますが、結果的に変わってもいいのです。ライフステージでバランスの取り方は変わることも見据えつつ長期的な視点で考えましょう。併せて「他者・社会とのつながりの中で、偶然の出会いも大切に」という視点も必要です。無理せず自分らしく、状況に応じて柔軟に、多様な生き方を認め合える人ないし地域・社会を目指す、そうしたことがライフキャリアを考える上で大事なことです。

## ■受講生の感想（抜粋）

- 5年先のこと、なんとなくですが想像はしたことがありましたが、実際に紙に書いてその為にはどうしたら良いのか、行動していくのかを考えられて、そして他人の意見を聞いて良い時間でした。確かに社会変化などによって、その都度変わっていくもの…。その時点で前向きにとらえて4つのLのことを思い出し自分の価値につなげられたら良いです。人生100年時代は長いので、まだまだやりたいことができる時間はたっぷりあるので、何か趣味、勉強したいことをみつけられたらと思いました
- これからは、男女だけでなく、ライフキャリアも「多様性重視」であり、社会に柔軟に対応していく力、またそれを受容する社会となっていくことを実感した。ライフキャリアを実際にアウトプットしてみて、すっきりした気持ちになった。まだパルカレッジは続くが、受講前に比べて、自分の考え方が変わった。より生きやすくなった。
- 5年後の自分と4つのLを考え、自分の理想とする、ライフキャリアをデザインしたので具体的に描くことができた。環境や社会が変わっていくなかで、無理せず自分らしく、生きるために柔軟に対応していこうと思う。
- 5年後の自分、全く考えていなかったのですごく楽しい時間でした。紙に書いて共有すると、自分の気持ちが整理できて、本当は自分が何をやっていきたいのか、何をしていけばよいのかがはっきりしました。
- ライフプランの作成は、最初はできるのか心配しましたが、講座の中で、楽しく自由に作ることができました。夢や願望そのままでしたが、そこから、「そういえば5年後の自分を想像もしてなかった」と思い、今やることは何だろうかと改めて考えることができました。
- 専業主婦ですが、子育てが落ちついたら仕事はしたいと思っており、ライフキャリアについて考えることで具体的に5年後をイメージすることができました。将来のことを考えるとともに、

今の子供との時間も大切にしたいと思うことができ、とても良かったです。

- 「自分のやりたいことがわからない」、「自分の将来が描けない」と思い込んでいた。落ちついて時間をとって、4つのLから考えてみると、(実現可能性は別として) アイディアが出てくるものだと驚きました。自分と向き合って考える時間をとる、他人とそれについて話す時間をもて、とても有益でした。今日から、何か1つでも5年後の自分にむけて一歩を踏み出したい。
- フロア（本会場）からの質問にあったように、生き方が多様化している反面、経済的事情等によって、むしろ選択肢が狭められている現状があると思います。社会を変えていかなければと思いました。

## 見えないものが見えてくる～メディアの見方～

講師：東海大学文化社会学部広報メディア学科教授 谷岡理香

【プロフィール】元テレビ高知アナウンサー。専門はメディアとジェンダー。  
(一社)「青空朗読」を設立し耳で聞く図書館作りを進める。



### ■本講座の目的

①自分が自分らしく生きていくために、受け身にならず能動的にメディアを読み解きましょう。

②自分の気持ちを語る。これが日本の女性に特に足りないところで、学校教育は「正しいか正しくないか」が多く、気持ちを語る教育はほぼなかったので仕方ないです。気持ちを語るのに正解も不正解もないので「私は今はこう思う」を大切にしましょう。

③他者の声を聞く。同じものを見聞きしても感想は人それぞれです。異なる意見を聞くことでぜひ自分の考えを改めて膨らませてください。

### ■マス・メディアが果たす役割

受け取る皆さんからすると、社会や世界の情報をニュースで知ることができる。また、ドラマやスポーツを見て、くつろぎや娯楽を得る。それから、教養を身に付ける、討論会とか、ラジオ英会話等です。そして「マスメディアが社会に与える影響は大きい」というのは国連が認めていることです。意識形成や人格形成ですが、特に子どもの人格形成には非常にメディアが関わっていると言われています。

### ■子どもの成長とメディア

子どもたちに影響を与えるものは、まず家庭の教育方針、そして学校の先生や友達です。「隠れたカリキュラム」という有名な言葉がありますが、指導要領になくとも先生の価値観がふとした所で出てくることがあります。また、年齢が低いうちは家族と一緒に見たり、または見ていないと友達と会話が広がらないから見るという理由でメディアと触れる機会が多いですが、高校生ぐらいになると、徐々

に人と同じではなく、自分だけの好みのメディアを持つようになり、自分らしい付き合い方を習得してくると言われています。

### ■シンデレラ→アナ雪

昔(シンデレラ)は、女の子は美人で従順で王子様が迎えに来てくれるのを待つのが「当たり前」でした。今(アナと雪の女王)は、ありのままの自分でOK、自分の人生は自分で切り開くという姿勢が受け入れられています。ディズニーやハリウッドは、人権のために映画を作っているわけではなくビジネスですから、それだけ受け手側の土壌が整って、女の子が非常に自立的な社会になってきているということです。「HUGっと!プリキュア」は研究者の中でも話題になりました。「女の子だってヒーローになれる」というのは昔からありましたが、「男の子だってお姫さまになれる」というのは日本のアニメでは初めてです。大事なことは、例えば人を傷つけてはならないというのは、時代を超えた普遍性がありますが、メディアで描かれる女性・男性像は時代と共に変わる。誰かに作られた女性らしさがあれば、教育によって作り変えることも可能だというのが私たちの考えです。苦しい思いをする人がいる社会よりも、自分らしい生き方ができる社会のほうが豊かではないかという気がします。

### ■多様な家族像(オランダ教育番組「二人のパパの歌」)

豊かな社会を作るためにメディアにもできることがあるという1つの事例として、ゲイカップルに引き取られてきた男の子自身が歌を歌うという動画を見ていただきました。日本のメディアでも、



NHK は 2000 年代初頭に LGBT や性暴力の話題を教育テレビで集中的に流していた記憶があります。最近ではわざわざ公共放送でやらなくても、インターネットで当事者たちの色々な情報に触れることができるようになりました。これは新しいメディアのおかげだと思っています。当事者たちが発信している例として「二人のパパ」という書籍も、ぜひインターネットで検索してみてください。子どもの心と体が柔らかいときに、人はみんな一緒なんだ、どんな人がどんな人を好きになったっていいんだと伝えていくことが大切だと思っています。

### ■日本人の意識調査

NHK が 1973 年から 5 年に一度 100 近い質問をする調査ですが、男女像についての意識が最も大きく変わっています。「結婚しても子どもが生まれても仕事を持ち続けたほうが良い」と思う人は 1973 年は 20% でしたが 2018 年は 60% です。ここで、日本の働くママが置かれている現状を表していると言われる CM (味の素株式会社「日本のお母さん」編) を紹介します。家事も仕事も子育ても母親が全てこなし、父親はほとんど出てこない。日本は長時間労働が多いので、国も働き方改革等を進めていますが、現状では依然として厳しい状況です。

### ■日本は男女平等後進国

世界経済フォーラム発表の 2021 年ジェンダー平等指数で日本は 120 位です。日本は時代の大きな転換期にあって変わらない状態が続いていますが、あらゆる分野でジェンダーが重要な柱の 1 つということは認識されつつある状況です。数十年前に日本と同じ順位だった北欧やフランスは順位を上げている一方で日本は 120 位に下がっている、世界のほうがジェンダー平等に向けてスピードアップしているということです。

### ■放送局における女性の参画率

政府の目標は管理職に占める女性の割合を 3 割にすることですが、現実には NHK・民放の一般職員に占める女性の割合が 3 割に届かない状況です。世

界の報道組織の中でも日本の女性参画は最低水準にとどまっています。また、2019 年に行った調査では、キー局の報道・制作・情報制作部門の局長ポストに女性がゼロでした。そういう人たちが何をニュースとして出してくるかということをお客様にはぜひ見ていただきたいと思います。

### ■送り手側のジェンダー感覚

かつては「夫から妻への暴力」は「男女の私的な問題」、「性被害」は悪質な「いたずら」、「高齢者介護」は「嫁の仕事」と考えられており、そんなものはニュースにならないと言われていました。しかし、今やどれも社会問題です。マス・メディアは公共的な役割があるので、利益を上げることだけが目標の組織であってはいけない、こんなに遅れていて良いのかと思います。

### ■スポーツ界の女性・ジェンダーをめぐる動き

まず、日本ではスポーツは「男の世界」という認識が未だに根強いと思います。また欧米ではスポーツは運動 (楽しみ、勝負、余暇) と捉えられていますが、日本では体育 (身体能力、態度、知識、思考、判断を身に付けさせる) のイメージがある、そこから暴力性や根性、気合と結びついている面もあると思います。

次に、今年オリンピックの年なので、最近のスポーツ界で起きたジェンダー関連の出来事を紹介したいと思います。

【サッカー】2012 年にサッカー五輪代表が、男子はファーストクラス、女子はエコノミークラスで移動していたことが問題になりました。2020 年には元なでしこの長里優季選手が男子リーグに移籍しました。「挑む姿勢を社会、子どもたちに示したい」、「女子スポーツの遅れを気付かせたい」という理由だったそうです。そして 6 月には同じく元なでしこの横山久美氏がトランスジェンダーであることを公表しました。私は私であるというふうには、こういう方が公表してくれるとどれだけ人々に勇気を与えるだろうかと思います。この秋からは WE リーグという女性のサッカーリーグも開幕し

ます（初代チェアマンは岡島喜久子氏 63 歳）。この方も子どもの頃からサッカーをやっていたけれど、日本では女性がサッカーを続ける環境がなかったため、アメリカに渡ってその土台を作り、ライフスタイルが変わってもサッカーを続けられるプランを立て日本に帰ってきたとのこと、この方がどのように手腕を発揮してくれるのか楽しみです。

【野球】野球はなかなか女性に門戸が開かないと言われますが、2020 年にアメリカ大リーグでラジオのスポーツ専門チャンネルに女性初の解説者が出ました。また同年、マイアミ・マーリンズでは初の女性ゼネラルマネージャーを迎えました。組織のトップに女性が就くということは、スポーツ界も大分変わりつつあると思います。

【バスケットボール】米プロバスケットボールでは、2020 年の記事ですが、女性プロリーグ(WNBA)で出産時の休養期間の補償や育児給付金を含む、女性の待遇改善が進みました。女性選手の地位向上に直結する大きな変化ですね。速さ、強さだけがスポーツだとするならば、平均値を取れば筋肉量の多い男性が強いですが、スポーツは決してそれだけではない、スポーツの違う側面が広がれば良いと、多くの研究者も指摘しているところです。

### ■3 つの CM を見てグループワークを実施

株式会社ナイキジャパン、報道ステーション(株式会社テレビ朝日)、LIFULL HOME'S(株式会社LIFULL)のCMを見て、グループで感じたことを話し合いました。

### ■まとめ

「メディアはメッセージ」という有名な言葉がありますが、メッセージには作り手の価値観が意図する、意図しないに関わらず反映されています。日々ニュースとして伝えられる情報も、同様です。では誰がそれを「価値」ある情報として伝えているのか、それを批判的に考えてみるのが大切です。何のためかと言えば、自分らしく生きるためです。毎日洪水のようにニュースは流れてきますので、取捨選択することで情報に溺れない、自己肯定感

を保ちながら情報に接しましょう。そして同じCMを見ても色々な感じ方があるように、他者の他者らしさを認める力をつけることも大切です。目的は「多様性を認め合う」ためですが、違う人たちと生きていくのは簡単ではありません。でも皆が違うことを認めて話し合っていけば良いのだと思います。

### ■質疑応答

受講生：子どものメディアとの付き合い方について、ただ受容するだけの姿勢でいる子どもにどのような声掛けをしたら良いのでしょうか？

講師：各家庭のやり方があるので、私も正解は持っていないですが、一緒に見るのが大事だと思います。小さいときから横で一緒に見て(メディアはこう言っているけど)お母さんはそう思わない、わからないとか、大人と子どもがコミュニケーションを取りながら見る環境が大事ではないかと思っています。

### ■受講生の感想(抜粋)

- ・放送局において今の時代もこんなに女性がいないうことに大変驚きました。ニュースは日々多くの情報量があり、1つ1つ考えてみるのが難しいからこそ、メディアがどういった性質やジェンダー感覚を持ってニュースを発信しているかを理解しておくことはとても大切であると感じました。
- ・グループで同じCMを見て、他の人の考え方や感じ方を聞くことができたのがとても面白かったです。1つの情報でも人によって捉え方が全然違うなど、当たり前ですが実感しました。家庭の中でも、メディアを上手に利用して様々な事を話し合えるといいなと思いました。



## ワタシの中の性別役割分担意識を知る

講師：神奈川大学人間科学部教授 荻野佳代子

【プロフィール】キャリア・ジェンダー・ストレスをキーワードに心理学の立場から研究。男女共同参画の視点からライフキャリア教育にも取り組む。



### ■sex（生物学的性）、gender（社会・文化的性別）

「性別」はsex（生物学的性）とgender（社会・文化的性）の2つから成っています。genderは「男女に関する社会・文化的な意味づけ」を指し、3つの段階があります。1つ目は性自認あるいは性同一性と言い、自分のことを自分でどう認識するかです。女性・男性、両性（男女いずれでもある）、中性（男女の中間）、無性（男女いずれでもない）等があります。2つ目は性別役割態度と言い、性に関する社会的な役割や男らしさ女らしさです。3つ目は性的指向と言い、異性愛、同性愛、両性愛、無性愛等です。性別には様々な次元があり、多様で連続的だということがわかりますね。

### ■固定的性別役割分担意識

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方をどう思いますか。これは「固定的性別役割分担意識」を伺う典型的な質問です。男女共同参画基本計画によると、これは男女を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることが適当であるにも関わらず、「男は仕事・女は家庭」のように、性別を理由として役割を固定的に分ける考え方のことで、社会全体にそうした意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）が存在していることが課題です。ポイントは「固定的」で、本来は自由にライフスタイルを選べることを社会や周囲の影響で選択できない、しづらい状況になっている点が課題ということです。

### ■ジェンダーステレオタイプとは？

社会の期待として人々が共有する男らしさ女らしさを「ジェンダーステレオタイプ」と呼びます。性別役割分担意識で見ると、男性には仕事をする

上で望ましい性質（独立心がある、積極的、強い）が、女性には家事育児をする上で望ましい性質（他者とつながる協同性、感情表出が豊か）が結びつけて捉えられています。ステレオタイプは固定観念や紋切型の考えのことで、ある集団に共通して持つと思込まれている特徴を言います。ステレオタイプを持つことには利点もあり素早く人を判断する際の手がかりになりますが、一方で単純化され柔軟性を失いやすい。一旦ステレオタイプが完成すると、特徴に一致しない人がいても何とか一致するように見たり例外と考えたりして、ステレオタイプを維持しようとすると言われています。

### ■無意識の偏見＝アンコンシャス・バイアス

これは「過去の経験や習慣、環境から生じる、自分自身が気付かずに持つ偏った見方・考え方」と定義されています。例えば「子育てや介護は女性が向いている」「PTA会長は男性が良い」など日常的な会話の中にも無意識の偏見が潜んでいます。

### ■グループワーク

各ライフステージで経験する、経験したジェンダーやステレオタイプについて話し発表しました。

### ■まとめ

普段の生活で感じる違和感を大事にしましょう。一方で自身の信念や考え方、各ライフステージでの経験も大事にして、違和感に気づき、温め、何かにつなげる、それがジェンダーを超え人がつながることだと思います。また、ヒントとして、ステレオタイプは疲れていたり忙しいと活性化しやすいので、日頃から自分も周りも心や体に余裕を持った上で人と関わることも大切ですね。

## ■受講生の感想（抜粋）

- 性別役割分担意識やアンコンシャス・バイアスが自分の中や社会の中に様々あることを改めて認識しました。自分自身が気付いて意識して過ごすことにより、少しずつ周りの人に対してもとらわれない、あたり前を疑うような働きかけができるとよいなと思いました。まずは子育てにおいて実践していきたいと思います。有意義な講義をありがとうございました。
- 自分で子育てを行っていく上で気を付けないと、と意識していても、学生服の違いだったり、どうしても自分達では何ともならないこともあり、世の中を変えるのってむずかしいなと改めて思いました。男女性別気にせず育ててきたが、それによって子供が世間とのずれを感じて困っています。
- 自分の中でも気付いていない思い込みがたくさんありました。男だから、女だからこうあるべきの考えが、社会の中にたくさんあり、それをなくすことがとても難しいことだと感じました。また、赤ちゃんの頃から女の子へは人形、男の子にはロボットなどのおもちゃを与えている映像が印象的でした。2才の娘が今車や電車が好きだったり、ウルトラマンの人形やTVが好きでも（兄の影響）気にしなくてよいし、好きな物は好きでいいんだなと安心しました。良い時間をありがとうございました！
- 久々の講座で楽しかった。子育て期ということもあり、幼い頃から向けられる性的ステレオタイプの発言がやはり気になる。子供の頃から「自分（その人）らしさ」にフォーカスした声掛けが沢山なされると良いと思う。
- ワークで、アンコンシャス・バイアスについて改めて気付く機会になりました。車輪のように、いろんな時期で、私たちは日々影響を受けていて、ここから抜け出していくのは、個人レベルでは「気付き」であり、社会レベルでは、このアンコンシャス・バイアスなのだと思います。まず、今一度、自分の固定観念を見直して、子どもへの声掛けを「これでいいのか」試行錯誤していきたいと思いました。
- 無意識にジェンダー観念にとらわれている、他人からそのようなことを言われた時に、違和感を感じてもどうすれば良いのかわからなかったが、まずは気付くことが大切と先生がおっしゃっていたので、自分なりに気がついたことを日々考えていきたいと思います。
- 今日の気付きとして疲れているとき、忙しい時にステレオタイプが活性化しやすいのなら意識して気を付けたいと思いました！

## 身近にあるジェンダー・バイアス

講師：公益財団法人日本女性学習財団学習事業課長 池田和嘉子

【プロフィール】大学院で成人教育・生涯学習論を専攻し、国立女性教育会館の客員研究員等を経て現職。女性の生涯にわたる学びとキャリア形成に関する講座企画運営を行う。



### ■社会の中では…

今日のテーマは「身近にあるジェンダー・バイアス」ですが、世の中に目を向けると「性別」にまつわる「気になる」発言が目にとまります。最近ではジェンダー平等が「新語・流行語大賞」にノミネートされましたね。他にも元オリンピック組織委員会の森氏の発言（女性は競争心が強いから会議に時間がかかる、組織委員会の女性は皆わかまえていて…）は注目が集まりました。箱根駅伝では監督が選手を鼓舞するために「男だろ」と言っていました。「女だろ」と言うのでしょうか。

「お母さん食堂」は某コンビニエンスストアの人気商品ですが「なぜこのネーミングなの？」という声も上がりました。このように性別に関わる様々なもやもやがある、この社会についてまず見ていきたいと思います。

### ■男女共同参画社会の実現

皆さんは「21世紀の我が国社会を決定する最重要課題」をご存知ですか。それは「男女共同参画社会の実現」です。これは1999年制定の男女共同参画社会基本法の前文にも記されている言葉です。今年で、この法律制定から22年が経ちました。世界を見ると女性差別撤廃条約（どんな分野においても男女の区別なく平等で人権が守られることを目的に締結された条約）が採択されてから約40年が経っています。資料には男女共同参画に関わる代表的な法律を掲げていますが、この40年は世界でも日本でも男女平等な社会に向けて変化してきた「激動の年月」だったと思います。ちなみに「男女共同参画社会」とは、「男女共同参画社会基本法」第2条によると、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる

分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」と定義されています。つまり、「性別による差別や不利益がなく、私らしく生きることができる」社会の実現が21世紀の最重要課題であるということです。では実際にそのような社会になっているのでしょうか？

### ■いまは「男女平等」な社会なの？

「男女の地位の平等感」の意識についての調査（「江東区男女共同参画に関する意識実態調査」2020年3月）では「どちらかといえば」を含めると全体で約6割、女性では8割近くが「男性のほうが優遇」されていると思っています。皆さんの実感と比較してどうでしょう。国の調査でも同様の数字が出ており、過年度と比べてもほぼ変わらず「男性のほうが優遇されている」と思う人は全国でも7割を超えています。

また世界経済フォーラムの調査で男女格差がどれくらいあるかを表す「ジェンダーギャップ指数」では、2021年、日本は世界156ヶ国中120位です。4分野（健康・教育・政治・経済）の中で、特に政治・経済における格差が著しく、日本は健康で教育を受けた女性が活躍できていない状況と言えます。年々順位は落ちており、全く頑張っていないわけではないですが、他も頑張っているから追いつかないといった状況です。先ほどの調査で出てきた「男性が優位だと感じる」ということが、肌感覚だけでなく実際の社会もそういう状況だということが見えてきます。

## ■男女共同参画社会の実現を妨げるものは？

1つのキーワードが「ジェンダー」です。ジェンダーとは、社会的・文化的に作り出される性別を示す言葉で、「生物学的性」とは異なるものです。子どもが生まれると母子手帳に「男・女」と記載されますが、これは外性器を見て客観的に判断する「生物学的性」です。でも本人は、自分が男らしい女らしいなどと考えているわけではありません。その赤ちゃんを見て「男の子だからたくましいね」とか「女の子だから将来は●●かな？」というのはジェンダーと言えます。そして、ジェンダーについての固定観念や偏見、無意識の思い込みが「ジェンダー・バイアス」です。例えば、男の子は青、女の子はピンクとか、男の人は乱暴な言葉遣いをしていても良いが女の子の人が言うと「乱暴だ」と言われるとか。看護師さん＝女性、土木作業＝男性とか…。余談ですが、ピンクは元々、戦争をイメージする「赤」よりの色なので海外では「男の子の色」とされていたり、フランスではハイヒールは王様の富や権力の象徴で男性のものとしていた時代もありました。時代の変化の中で、ジェンダー規範も変わっているのが事実です。今私たちが「当たり前」と思っているのは、今の日本の社会が作り出したもので、元から決まりきったものではないのですね。

## ■ジェンダー・バイアスの例

①江東区の広報誌PalCatoのNo. 41(2015年度)には「見慣れた光景!？」と題して、銀行の窓口を表すイラストが載っています。窓口にいるのは全員女性で奥に男性がいる配置のものや、その逆もありますが、どれが皆さんにとって「自然」で、なぜそう感じるのでしょうか。こうした社会のあり方によって、私たちが何を「当たり前」と思っているかが見えてくると思います。

②「～らしさ」について、P&Gの女性向けブランド「Always」という会社のCMでは「女の子らしく走ってみて」と言われ色々な大人が走ります、手を横に振ったりくねくねしたり。でも10歳の女の子に同じことを言ったら「それは私らしく全

力で走るっていうことでしょ」と言って走りました。「女の子らしく」と聞いてくねくねした前提はどこにあるのでしょうか。

③ガールスカウト日本連盟が2019年に10歳の女子に行ったアンケートでは、「女子は男子よりも料理が上手にできたほうが良い」と答えた割合は85%でした。10歳で既にこんな意識ができていることがわかりますが、なぜこのように思うのか。それを育てているのは何か。私たちは生まれながらに「女らしく」「男らしく」と思っているわけではなく、社会の刷り込みの中でジェンダー・バイアスを身に付けていくものなのです。

④内閣府でも今年度「性別にかかわる無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)」に関する調査研究を行っています。賛同する人が多い上位10項目の内、男女ともに挙げているのは「男性は仕事をして家計を支えるべき」、「女性は感情的になりやすい」等です。一方で男女どちらかが挙げていたものは、男性では「人前で泣くべきではない」、女性では「共働きで子どもの具合が悪くなら、母親が看病すべき」などが出ています。これも社会の中でのメッセージ・バイアスを知らず知らずのうちにつまみ込んでいく結果かもしれません。

## ■イラストで発見！身近にあるジェンダー・バイアス

日本女性学習財団作成のパネル「なるほどジェンダー」(暮らしや社会に潜むジェンダーの問題をイラストや言葉でわかりやすく表現したもの)を見ながらグループで気になるパネルを選び、感じたことを付箋に書いて共有しました。

## ■補足(各パネルに紐づくデータの紹介)

①パネル「働く女性は増えたけれど…非正規雇用の7割は女性」に関連して、実は世界的に“Shecession(シーセッション・女性不況)”と呼ばれる現象がコロナ禍で生まれました。NHK・JILPTが2020年に共同実施した「新型コロナウイルスと雇用・暮らしに関する調査」によると、コロナの影

響で解雇や労働時間の短縮、休業等に至った割合は男性よりも女性で高く、女性の中でも非正規雇用で高くなっており、社会的に弱い立場の人にしわ寄せがいつていることが見て取れます。

②パネル「育休はあるけれど…〈取得に理解のない企業風土〉」について、(一社) Lean In Tokyo の調査によると男性が職場や学校、家庭で「男だから」という固定観念により生きづらさを感じる割合は 51% (頻繁に感じる 17%、たまに感じる 34%) に上っています。ジェンダーの問題は女性の問題と言われがちですが、例えば平日の昼間に働き盛りと言われる男性が歩いているだけで不審者扱いされる等、本当は男性も辛い状況があることがわかります。

### ■見えてくることは

性別によって異なる経験をしたり、役割を負わされたりすること (ジェンダー・バイアス) が依然として身近な社会の中にあり、女性だけでなく男性も生きづらいつ感じていることが見えてきたと思います。ジェンダーによる生きづらさが残る社会は「自分らしく」生きることを阻んでしまうのではないのでしょうか。

### ■わたしが「自分らしく」生きるために

まず足元の資源を知ることから始めましょう。

①江東区では、これからの男女共同参画推進施策を着実に進めていく基盤として、今年春、「男女共同参画江東 (KOTO) プラン 2021」を制定しています。基本理念は「多様性を認め合い、安心して暮らせる社会を目指す」です。

②江東区男女共同参画に関する意識実態調査も、江東区の男女共同参画にかかわる意識を知ることができるのでお勧めです。

③また「男女共同参画審議会」にも注目してください。配布している昨年度の PalCato3 頁「江東のひと」で紹介されている金子さんは、パルカレッジで学んだ皆さんの先輩にあたる方で、審議会委員や江東区男女共同参画フォーラム実行委員長 (2019) などでも活躍されています。このように、

地域と関わり男女共同参画社会の実現に向け携わっていくことができます。

### ■まとめ

①「自分ごと」は「皆ごと」、個人的なことは社会的なことて個人のモヤモヤは社会とつながっています。だからこそ一人で抱え込まず皆の問題として考えていきましょう。

②「違和感」を大事にしてくださいと冒頭に言いました。「普通」「当たり前」の景色を変えていくことは、次世代に生きる子どもたちへのプレゼントであり、責務であると思います。そのため何ができるか、ぜひ考えてみてください。

③このパルカレッジで学び合ったつながりを大切にしてほしいと思います。ママ友も大事ですが、子どもとは別の、一人の大人として話し合える「マナトモ (学友)」をぜひ大事にしてください。さらに、このセンターを拠点にして様々な活動に取り組んでいただければと思います。

### ■明日からの一歩を言葉にしてみましょう

「明日からやってみよう、取り組んでみようと思つたこと」を A4 の紙に記入し、受講生が一人ずつ発表しました。

### ■受講生の感想 (抜粋)

- ・そこまで自分に生きづらさを感じずにきましたが、世の中には様々なジェンダー・バイアスがあること、そして日本も変わろうとしていること、変わろうとしていてもなかなか実現していないことが沢山あるなと感じました。当たり前のこと、すりこまれた感覚を少し立ち止まって考えるクセを付けて子どもやまわりの人にも知ってもらえるようにできたらなと思います。
- ・女性だけでなく、男性もプレッシャーを感じている点、興味深かつたです。モヤモヤは社会を変える力になる。次世代へのプレゼントに共感しました。モヤモヤはあつていいんだ。見過ごさず、日々気付いたら書きためていつか使える引き出しにしたいです。

2021 第29期江東区パルカレッジを終えて

(修了生12名中6名提出)

**今後の地域活動（男女共同参画関連団体、NPO、ボランティアなど）への参加について**

- a 現在も参加しているが、今後も参加していこうと思う。(0名)
- b 現在は参加していないが、今後は参加していきたいと思う。(6名)
- c 現在は参加していないし、今後も参加しないと思う。(0名)
- d その他（過去に参加していたが、子育て中はしばらく難しい）(0名)
- e 無回答(0名)

**今後の学習の継続について**

- a 今後も学習講座等に参加あるいは、自主学習グループで学んでいこうと思う。(6名)
- b 講座等には参加しないが、自分で学習は続けていこうと思う。(0名)
- c 特に学習はしないと思う。(0名)
- d その他(0名)
- e 無回答(0名)

**全8回のカリキュラム（公開講座を除く）のなかで、特に印象に残った講義は何ですか。**

(複数回答可)

No.	日程	カリキュラム	講師	回答
1	6/4 (金)	ワタシたちをとりまく社会の変化 ～ジェンダーへの視点を中心に～	明治学院大学社会学部 教授 加藤 秀一	3名
2	6/17 (木)	家族みんなで楽しく暮らす！ ～ご機嫌に過ごすための家事半分術～	家事研究家 佐光 紀子	5名
3	6/24 (木)	多様な性ってなんだろう？ ～互いの違いを受け止めあえる社会を 目指して～	認定特定非営利活動法人 ReBit	5名
4	7/1 (木)	身近にあるDV ～自分も相手も尊重し合える関係をつ くろう～	一般社団法人エープラス 代表理事、自治体 DV 専門 相談員 吉祥 眞佐緒	3名
5	7/8 (木)	自らのライフキャリアをデザインする	神奈川大学人間科学部 教授 荻野 佳代子	1名
6	7/15 (木)	見えないものが見えてくる ～メディアの見方～	東海大学文化社会学部 広報メディア学科 教授 谷岡 理香	2名
7	11/11 (木)	ワタシの中の性別役割分担意識を知る	神奈川大学人間科学部 教授 荻野 佳代子	2名
8	11/18 (木)	身近にあるジェンダー・バイアス	公益財団法人日本女性 学習財団学習事業課長 池田 和嘉子	2名

**第29期のパルカレッジを振り返って感じたこと、今後のパルカレッジに対してのご要望（カリキュラム・回数）などがありましたら、お聞かせください。**

- どの講義も自分にとって知らない世界だったので広げられて良かったですし、良い機会をありがとうございました。
- 参加動機は「子どもを預けられる」「自分の学びの時間を得られる」という単純なものでした。しかし講座に参加してみて、どれもとても興味深く、どの人も「自分らしく生きるには」について非常に考えさせられたものであり、自分の興味関心も、とても強い内容だったことに気付きました。日々生活をしていて、どこか「当たり前」、「仕方ない」と思いつつも生きにくさを感じていたモヤモヤは、同じようにモヤモヤを抱えている人たちがいることに気付きました。また、この小さなモヤモヤが原動力となり、社会を少しでも変え、生きやすい社会へ変えていきたいと将来的にやりたいことの1つになりました。参加して本当に良かったです。ありがとうございました。
- コロナ禍の中、対面での講座を実施いただきありがとうございました。貴重な学びとなり感謝しております。参加日時から子育て中の女性の参加者が多かったですが、講座の内容は男性にも、今働いてモヤモヤしている女性にも聞いてほしいものばかりだったため、夜間のオンライン講座といったものもあると良いのになと思いました。長期にわたりお世話になり本当にありがとうございました。
- とても楽しかったです！私は高校卒業のあと働いており、大学の先生の話聞けるこの時間はとても貴重でありがたかったです！一緒に受講された方とのつながりも出来て、とても良い時間でした！実行委員会参加出来たらと考えております！さくらんぼ保育も本当にありがとうございました！またよろしく願いいたします！
- 育児中の良い気分転換になりました。別室受講できたのは良かったです、1歳以下の子どもにも保育があるとより良かったです。
- 女だから男だからということではなく自分らしく生きるにはどうしたら良いか、とても考えさせられました。回数・時間帯はちょうど良いと思いました。





# フォトメモリー

